

日本神経精神薬理学会第39回理事会（2007年度）議事録

日時：2007年1月23日（火）14:00～17:00

場所：八重洲倶楽部 第11会議室（東京）

出席者：樋口輝彦理事長、大熊誠太郎、齋藤利和、鈴木勉、武田弘志、鍋島俊隆、西川徹、松田敏夫、山脇成人、油井邦雄、吉岡充弘、米田幸雄（以上、理事）
小島卓也、五味田裕（以上、監事）、野村靖幸前理事長（オブザーバー）

議事：

・挨拶

1. 新理事長挨拶

昨年9月16日（土）に開催された新旧理事会による臨時理事会において選出され、本年より就任された樋口輝彦理事長より挨拶があった。

2. 前理事長挨拶

オブザーバーとして参加された野村靖幸前理事長より挨拶があった。前期における理事会活動・学会運営への協力に対し感謝の辞が述べられ、前期までに取り組んでいたCINPとの協力などの諸活動や各種委員会活動などについて説明された。

・報告事項

1. 委員会構成の件

各委員会委員長よりの提案などを基に、臨床・非臨床のバランス、委員の重複などが勘案・検討され、以下の通り決定された。

< 総務委員会 >

- 委員長 米田 幸雄（金沢大学大学院自然科学研究科薬物学研究室）
委員 伊藤 芳久（日本大学薬学部薬理学教室）
佐藤 光源（東北福祉大学大学院精神医学）
鍋島 俊隆（名古屋大学大学院医学研究科医療薬学・附属病院薬剤部）
野村 靖幸（横浜薬科大学）
野元 正弘（愛媛大学医学部臨床薬理学講座）
松田 敏夫（大阪大学大学院薬学研究科複合薬物動態学分野）
山脇 成人（広島大学大学院医療薬学総合研究科（精神神経医科学））
吉岡 充弘（北海道大学大学院医学研究科神経薬理学）

< 広報委員会 >

- 委員長 油井 邦雄（関西国際大学人間学部）
委員 池田 和隆（（財）東京都医学研究機構東京都精神医学総合研究所）
加藤 進昌（東京大学医学部附属病院精神神経科）
鈴木 勉（星薬科大学薬品毒性学教室）
仙波 純一（放送大学教養学部）
野村総一郎（防衛医科大学校精神科学講座）
野村 理朗（東海女子大学人間関係学部）
廣中 直行（科学技術振興機構下條潜在脳機能プロジェクト）
吉村 裕之（愛媛大学大学院医学系研究科健康科学研究室）

< 学術賞選考委員会 >

- 委員長 齋藤 利和 (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)
委員 石郷岡 純 (東京女子医科大学医学部精神医学講座)
伊豫 雅臣 (千葉大学大学院医学研究院精神医学)
大熊誠太郎 (川崎医科大学薬理学教室)
小川 紀雄 (中納言クリニック)
小山 司 (北海道大学大学院医学研究科神経機能学講座精神医学分野)
武田 弘志 (東京医科大学薬理学講座)
西川 徹 (東京医科歯科大学大学院精神行動医科学分野)
山田 勝士 (鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科薬物動態制御学分野)

< 長期計画委員会 >

- 委員長 尾崎 紀夫 (名古屋大学医学系研究科精神医学分野)
委員 石郷岡 純 (東京女子医科大学医学部精神医学講座)
稲田 俊也 (帝京大学医学部附属市原病院メンタルヘルス科)
野田 幸裕 (名城大学薬学部医薬連携実習部門病態解析学)
山田 清文 (金沢大学大学院自然科学研究科薬物治療学)
山脇 成人 (広島大学大学院医療薬学総合研究科 (精神神経医科学))
吉岡 充弘 (北海道大学大学院医学研究科神経薬理学)
米田 幸雄 (金沢大学大学院自然科学研究科薬物学研究室)

< 財務委員会 >

- 委員長 大熊誠太郎 (川崎医科大学薬理学教室)
委員 伊藤 芳久 (日本大学薬学部薬理学教室)
加藤 進昌 (東京大学医学部附属病院精神神経科)
亀井 千晃 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)
小山 司 (北海道大学大学院医学研究科神経機能学講座精神医学分野)
齋藤 利和 (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)
西川 徹 (東京医科歯科大学大学院精神行動医科学分野)
松田 敏夫 (大阪大学大学院薬学研究科複合薬物動態学分野)
山田 清文 (金沢大学大学院自然科学研究科薬物治療学)
山本 経之 (長崎国際大学薬学部薬理学研究室)
吉岡 充弘 (北海道大学大学院医学研究科神経薬理学)

< 編集委員会 >

- 委員長 鈴木 勉 (星薬科大学薬品毒性学教室)
委員 石郷岡 純 (東京女子医科大学医学部精神医学講座)
一谷 幸男 (筑波大学心理学系)
小野 秀樹 (名古屋市立大学大学院薬学研究科中枢神経機能薬理学)
五味田 裕 (岡山大学医学部・歯学部附属病院薬剤部)
武田 弘志 (東京医科大学薬理学講座)
武田 雅俊 (大阪大学大学院医学系研究科プロセッシング異常疾患分野)
田島 治 (杏林大学保健学部精神保健学教室)

成田 年（星薬科大学薬品毒性学教室）
野村総一郎（防衛医科大学校精神科学講座）
松田 敏夫（大阪大学大学院薬学研究科複合薬物動態学分野）
三國 雅彦（群馬大学大学院医学系研究科脳神経精神行動学分野）
宮田 久嗣（東京慈恵会医科大学精神医学講座）
森信 繁（広島大学医学部神経精神医学教室）
山田 清文（金沢大学大学院自然科学研究科薬物治療学）

< 国際学術委員会 >

委員長 山脇 成人（広島大学大学院医療薬学総合研究科（精神神経医科学））
委員 岩崎 庸男（目白大学人間社会学部）
神庭 重信（九州大学大学院医学研究院精神病態医学）
佐藤 光源（東北福祉大学大学院精神医学）
須原 哲也（放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター分子神経イメージング研究グループ）
野元 正弘（愛媛大学医学部臨床薬理学講座）
油井 邦雄（関西国際大学人間学部）
米田 幸雄（金沢大学大学院自然科学研究科薬物学研究室）

< 倫理委員会 >

委員長 亀井 千晃（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）
委員 大熊誠太郎（川崎医科大学薬理学教室）
神庭 重信（九州大学大学院医学研究院精神病態医学）
黒木 俊秀（九州大学大学院医学系研究科精神病態医学）
武田 弘志（東京医科大学薬理学講座）
山田 和男（東京女子医科大学東医療センター心の医療科（精神科））
山本 経之（長崎国際大学薬学部薬理学研究室）

< 研究推進委員会 >

委員長 西川 徹（東京医科歯科大学大学院精神行動医科学分野）
委員 尾崎 紀夫（名古屋大学医学系研究科精神医学分野）
亀井 千晃（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）
久住 一郎（北海道大学大学院医学研究科神経機能学講座精神医学分野）
曾良 一郎（東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座精神・神経生物学分野）
鍋島 俊隆（名古屋大学大学院医学研究科医療薬学・附属病院薬剤部）
松田 敏夫（大阪大学大学院薬学研究科複合薬物動態学分野）

2. 第37回年会準備状況（吉岡会長）

吉岡会長より、以下の通り準備状況が報告された。

会期： 2007年7月11日～13日

会場： 札幌コンベンションセンター

会長： 吉岡 充弘（北海道大学大学院医学研究科神経薬理学）

第29日本生物学的精神医学会（会長：小山 司（北海道大学））と合同開催

演題募集： 2月14日より（1月末頃に募集要項を配布予定）

3. 各種委員会報告

各委員会について、各委員長より今後の方針・懸案事項などが報告された。

a. 総務委員会（米田委員長）

会員数の減少に歯止めをかけることが目標であると述べられた。前回理事会・評議員会にて承認された名誉会員の推戴を行う予定。

b. 編集委員会（鈴木委員長）

原著論文の執筆・投稿が呼びかけられた。今後は薬剤師研修センターのポイントを取るなど、より薬剤師に対し魅力ある学会誌となるように努力すべきとの意見があった。

b. 財務委員会（大熊委員長）

財政は全般的に概ね良好に推移しているが、会員数の減少や正会員の会費納入率の低さなどが課題であり、今後、総務委員会とも連携し、会費督促を行うなどして会費収益を増やし財政を健全化に努めたい。

d. 国際学術委員会（山脇委員長）

昨年 10 月 4～6 に盛会のうちに開催された ICGP（国際老年精神医学会）への後援に対し謝辞が述べられた。

CINP の大会予定について、以下の通り報告された。

第 26 回 CINP 大会開催の件

会長： Hans Moler

会期： 2008 年 7 月 13～17 日

会場： ミュンヘン・ドイツ

シンポジウム締切：2007 年 4 月 30 日

2010 年については香港で開催されることになったこと、今後はアジア地域での協力を強化する必要があることが述べられた。また、今後の CINP などとの関係のためには日本臨床精神神経薬理学会との協力が必要であることが指摘された。

E. 研究推進委員会（西川委員長）

厚生労働科学よりの諮問などに回答したことなどが報告された。今後について、脳神経科学の研究費について関連学会との協力により獲得しようという動きがあること、樋口理事長、山脇理事が日本学術会議の連携会員であるので協力しながら情報を得てゆきたいと述べられた。

e. 学術賞選考委員会（齋藤委員長）

編集委員会との連携を強めて学術賞候補者が豊富になるよう努め、本学会学術賞の意義を保ち発展していけるようにすると述べられた。

f. 広報委員会（油井委員長）

ホームページの更新について案が提示され、さらに充実されるようにするため本年度予算の予備費から費用捻出することとなった。また来年度予算には「広報活動費」の費目を設けて支出する。また、ホームページに日本病院薬剤師会などあてにリンクを依頼し、相互リンクを貼ることで本学会ホームページの活性化を目指す。

. 審議事項

1. 合同年会時の事前抄録の扱いについて（吉岡会長）

前回年会において3学会合同であったことから日本神経化学会（NC）の事情に併せ英文のみとしていたが、本年度年会は日本生物学的精神医学会（BP）との2学会合同であり、BPは和文が通常であることから、対応について協議された。インターナショナル・セッション タイトルは英語で、スライドは英語で、アジアからの参加者のためにも、タイトルは英語で可能な限り英語だけれども日本語でもOKというような柔らかい表現としておねがいする形。

2. 次期年会（2008年）について（山脇理事）

山脇理事より日本臨床精神神経薬理学会（JSCNP）との連携を深めることを考慮し、以下の通り開催予定であることが報告された。

会期： 2008年10月1日（水）～3日（金）

会場： 品川プリンスホテル（予定）

会長： 山脇 成人（広島大学大学院医療薬学総合研究科）

第18日本臨床精神神経薬理学会（会長：石郷岡 純（東京女子医科大学））と合同開催予定

3. その他（樋口理事長）

樋口理事長より、今後はCINPとの関係上も、臨床系会員の獲得の観点からも、日本臨床精神神経薬理学会との連携が重要であるとの提議があり活発に論議された。

- 1) 年1回の年会において合同開催とするなどして連携を深めるべきとの意見があった。
- 2) 薬剤師の役割としてスペシャリティーが問われる方向性がある中で本学会などが果たす役割があり、薬剤師のためのワークショップを開催するなどすべき。精神科・神経科専門薬剤師が設置されるというタイミングでの協力は重要である。
- 3) 日本臨床精神神経薬理学会では専門医制度が発足したところであり、法人化なども考える必要がある。
- 4) 合同開催の際の場所・会長の決め方に考慮が必要である。まず場所ありきでは学会への貢献など会長を決める重要な観点がないがしろにされがちで、またある程度の都会でしか年会を開催できなくなる恐れがある。
- 5) 薬剤師の会員を増やすため、各地区の薬剤師会の受付に入会申込書を置くなどを総務委員会で検討する。
- 6) 薬剤師の会員が投稿する魅力を感じるよう、編集委員会において企画する。
- 7) 2010年のCINP大会においてサテライトを提案してはどうか。

以上のような点を踏まえ、基本的には日本臨床精神神経薬理学会と本学会両学会が良い関係で協力していくことが重要であることが確認され、長期計画委員会を中心に引き続き検討されることとなった。

以上